

# 令和4年度東京都立三田高等学校 学校経営報告

Have Wings And Fly High! - 教養・探究・立志そして世界へ -  
知的探究イノベータ推進事業支援

目指す学校<教養・探究・立志そして世界へ>

(1) 学校の教育目標＝教養人・指導者・開拓者の育成 ア 幅広くしなやかな知性と潤い豊かな感性をもつ教養人 イ 自主・創造の意欲と忍耐力・協調性との調和のとれた高い徳性を持つ指導者 ウ 自己を厳しく律しつつ、常に進取の気概をもって社会貢献できる開拓者	(2) 目指す生徒の将来像＝協働・創造・自立できる人材 ア グローバル社会の中で、多様な価値観をもった人々と英語をツールとして、協働して課題解決に当たれる人材 イ 高い志を有した教養人・指導者・開拓者として、仲間と協働し、ゼロから納得解を創造できる人材 ウ Plan・Do・Check・Actionの各能力、且つ、言語能力を持ち合わせ、社会で自立して生きていける人材 エ 専門性を有し、AI時代を生き残ることのできる人材 オ AIにない読解力と調整力を有した人材 カ 心身ともにタフな人材	(3) 学校の教育目標を達成するための基本方針 ア 問題・課題の発見から解決に到る主体的な学びを通し、個性・独創性の発現につながる質の高い学力を育む。 イ 体験活動、集団活動を通して、自主・自律の心、集団や社会の一員として自覚、社会貢献の精神を育む。 ウ キャリア教育を通して自己：：理解を促し、チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を育む。 エ 国際理解教育を推進するとともにわが国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際人・教養人を育成する。
--	--	--

組織	●成果と課題	○次年度へ向けて		
		A：大いに達成 B：概ね達成 C：達成できなかった		
中期的目標と方策	(1) 社会で活躍する人材の育成 (学習指導)	数値目標 ○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85%以上 結果：95.3%であった。	B	
		コメント ●主体的な学びについて、観点別学習状況の評価に関して、評価のしかた考え方を浸透させることができた。さらに精選したものに改良していく必要がある。 ●生徒一人1台端末の活用、アクティブ・ラーニングは昨年度より一層推進できた。 ●課題研究を年間計画に基づき、継続的・計画的に実施できた。今後さらに指導の充実が必要である。 ○観点別学習状況の評価について、教科や教科間の話し合いを通して、さらなる改善を実施していく。 ○端末の活用について、学校全体で情報交換をしていく。		
	(2) 「時を守り、場を清め、礼を正す」指導の励行 (生徒指導) ・高い志の進路指導 (進路指導)	数値目標 ○学校評価アンケート「生活指導」の生徒肯定評価80%以上 結果：76.5%であった。 ○「進学指導・キャリア教育等」の生徒肯定評価85%以上 結果：90.0%であった。	B	
		コメント ●コロナ禍の制約が多い中でも生徒主体に行事を運営することができた。制限がある中での実施についてのノウハウが蓄積されつつあり、さらなる改善と継承が必要である。 ●学年ごとに時期に応じて進路ガイダンスを複数回実施することができた。進路部と学年の情報共有をすすめ、指導の一本化を十分行うことが大切である。 ○新教育課程の入試への対応のための情報収集を十分行う。		
	(3) 戦略的な広報活動の展開 (募集対策)	数値目標 ○応募倍率2倍の維持 ○更新計画に基づいたホームページの管理 結果：1.96倍であった。	B	
		コメント ●感染症対策を講じながら学校説明会を対面で実施した。その結果、昨年度より1100名参加者が増加した。 ●今年度HPをリニューアルし、積極的に活用した。 ○外部団体主催の学校説明会参加の機会を拡大する。 ○リニューアルしたHPにより、在校生の活動や本校のPRを積極的・効果的に伝える。		
	(4) 信頼に基づく安心・安全な学校	数値目標 ○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% ○サービス事故ゼロの維持 結果：94.5%であった。サービス事故0を維持。	B	
		コメント ●感染症対策の充実を図り、行事の縮小や実施形態変更等の対応に対する生徒の心情に配慮し、心のケアを充実していく。 ●工夫した避難訓練等を実施できたが、防災教育の更なる推進を図る必要がある。 ○体罰根絶、いじめの未然防止、サービス事故ゼロ等に向けて、毎月、徹底を図る。 ○会議の時間短縮やICTの効果的な活用で、ライフ・ワーク・バランスのある職務に取り組む。		
	各教科	(5) 質の高い教育の提供	数値目標 ○学校評価アンケート「学習指導の教材や工夫」の生徒肯定評価85%以上 結果：86.4%であった。	B
			コメント ●生徒一人1台端末を活用した授業を展開し視覚的に訴え主体的に取り組む授業は推進できたが、対話的なペア・ワークやグループ・ワークをより効果的なものにするには途上である。 ●各行事が実施できたことで協働的・創造的なクラス活動となり、その経験が個々の成長にも繋がった。 ○一人1台端末、Microsoft Teams等を活用した授業を実践する。 ○行事が再開したことで、学力だけでなく協働性や創造性を獲得させるとともに、切磋琢磨・仲間意識を育むことで個々の成長を促し進路実現を図る。 ○各学年ともに学期が進むごとに遅刻者が増加する傾向にある。対話による指導を繰り返し生活リズムを改善させることで、学習習慣と主体的に判断する力を育成していく必要がある。	
	今年度の取組	各学年	数値目標 ○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% 結果：95%であった。	B
			コメント ●求める生徒像で、生徒に求める資質・能力は伝えられているが、本校の指導方針等を中学生に伝わる表現を検討する必要がある。 ●生徒が安心して学校生活を送れているが、個別の進路希望に対応していくことが必要になる。 ○学期に1回程度面談を設定し、進路実現に向けたきめ細かい指導を継続する。 ○進路指導の全体計画に基づき、組織的な進路指導を継続する。	
教務部・教育情報部		数値目標 ○入学選抜業務に関する事故ゼロ 結果：事故ゼロ ○新学習指導要領における「観点別評価」の実施 結果：混乱なく進められた。	B	
	コメント ●入学選抜業務、事故ゼロを目指して進行管理を行うことはできたが、業務の共有と分担を明確にした上で効率化を図る必要がある。 ●観点別学習状況の評価の情報共有や研修会を通して、大きな混乱なく進めていくことができた。 ○入選業務計画と、複数名による複数回の点検体制を計画的に構築する。 ○変革する共通テストや大学入試に柔軟に対応していくために教育課程検討委員会を定期的に開催する必要がある。委員会や組織の改組も検討していく必要がある。			
生活指	・ルールマナーの徹底 ・時間厳守の精神の育成	数値目標 ○学校評価アンケート「学校行事」の生徒肯定評価85% 結果：92.6%であった。 ○遅刻の前年度比の減少	B	

導部	・帰属意識の育成		感染症による出席停止等に方向性を示した。比較はできないが、減少したのは事実である。	
		コメント	●生徒が主体となり、感染症対策を講じた学校行事を実施し、行事の充実には繋げた。 ○週一回の学年生徒部と拡大部会を活用し、教員間のイニシアティブをより一層高めて生徒指導に一丸となって取り組む。	
保健部	生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。	数値目標	○定期健康診断で1年生全員面接終了 ○生徒理解のための研修開催(年1回以上) 結果:1年生の全員面接は実施できた。SCとの連携もスムーズであった。	B
		コメント	●第1学年の全員面接はスムーズに実施できたが、その結果を早い時期に全教職員で共有する必要がある。 ●定期的にSCとの情報共有、特別支援教育に関する委員会を2回開催することはできたが、生徒理解のための研修会を全ては実施できなかった。 ●清掃や環境整備について、大掃除の重点項目を決めて計画的に校無内美化を推進した結果、整理委員会が活性化するなど、清掃意識の向上が見られた。 ○OSC、専門医を活用し、生徒理解に努める。	
進路指導部	教養人の育成を目指すことにより、「高い志の進路実現」を促す。	数値目標	○進学実績の維持 ( )は浪人も含めた数値 今季 昨年 結果:国公立計 40(47) 33(45) 早慶上理ICU 97(117) 117(121)	B
		コメント	●進路指導部と学年が連携した進路指導の充実を図った。コロナによる感染症対策を徹底し対面での指導充実には成果を上げ、学習指導員活用が拡大した。 ●3学年生徒の受験に対する精神面を支援する体制、3学年的担任団への受験準備支援を行った。 ○各学年に向けた「模試のお知らせ」を示し、日時だけでなく模試実施の意義等も意識させることを継続して行う。 ○校内模試で「問題分析」及び「小問別分析」を各教科で実施し、本校の課題について教員が確認して生徒指導に生かすこと。これも継続して行い、生徒の弱点を生徒教員ともに共有する。	
国際教育部	本校の特色である国際理解教育をより充実させることにより、生徒の幅広い「高い志の進路実現」につなげる。	数値目標	○学校評価アンケート「世界に向けて視野を広げる教育」の生徒肯定評価80% 結果:87.8%であった。	B
		コメント	●感染症対策を講じ、様々な行事が再開できた上に、代替案としてカナディアン・キャンプを新規導入し良い反応見られたことは成果であった。今後も準備と工夫及び対策をもって国際交流課活動を提供できるようにする。 ○コロナの制限緩和による活動再開とその推進、さらにオンラインも積極的に活用し、より多面的な国際交流活動に取り組む。	
庶務部	・創立100周年記念行事の実施に向けた準備 ・戦略的な広報活動の展開	数値目標	○校内説明会参加者数延べ(4340)人 ○応募倍率2倍の維持 結果:人数制限により3280人であった。 応募倍率は1.96倍であった。	B
		コメント	●学校見学会・学校説明会の定員数増加、ミニ学校説明会・学校ミニツアーの新規実施等で昨年度より1100名増加した。ネット申込導入で混雑が解消したが回数を重ねるほど欠席率が高くなる傾向にあるので、更なる質の向上と対策が必要である。 ○学校説明会で生徒の様子が分かるような構成を検討していきたい。 ○リニューアルしたウェブサイトによって、情報発信の充実を図りたい。	
経営企画室	学校経営へ積極的に参加し、円滑な教育活動を支援する。	数値目標	○予算執行におけるセンター執行率60% 結果:センター執行率(77.6)%であった。	B
		コメント	●不要となった予算や契約落差金及びコロナによる実施変更の予算を補正し適切な予算配付を実現したが、費用対効果や優先順位を考慮した予算執行と時期を今後も提案していく必要がある。 ●増改修の機会を活用して維持・修繕を行うことができたが、生徒・教職員の安全を確保する環境整備が課題である。 ○就学支援金や奨学のための給付金(都立学校奨学金・多子世帯支援事業等)を適切に取り組む。 ○給排水衛生設備、とりわけトイレ等の不具合・不良箇所についての修繕や、教室等の鍵等安全にかかわる設備の計画的な修繕に取り組む。 ○自律経営推進予算と推進校予算を有効活用し、GE-NET20・TOKYO DX・探究学習・国際理解教育等に対する支援を適切に行う。予算のセンター執行率を向上させ、効率的な予算執行に取り組む。	